

## 実践 7

# 問題・課題解決能力を育む ESD の実践

## —総合的な学習の時間の ESD 化を通して—

愛知県立刈谷高等学校 渡邊 芳隆

### 1 はじめに

「持続可能な開発は、人類にとって唯一の選択肢だ。実際に作り上げていくのが我々の責任だ」、平成 24 年 6 月に開催されたリオ+20 における成果文書「The future we want (我々が望む未来)」の採択に際し、国連事務局長・潘基文はこう述べた。しかし、新興国や発展途上国は「共通だが差異ある責任」という文言を成果文書に盛り込むことにこだわっており、先進国との軋轢は否めない。ともあれ、20 世紀の自然破壊を伴う経済成長をこれからも継続することはできない。我々人類はどのように歩んでゆけばよいのか。高等学校の教育現場に身を置く我々の使命は、未来社会を担う人材、具体的には、自ら課題を見つけ、その解決に向けて積極的に取り組むことができる人材を育成することである。

本校はまもなく創立 100 周年を迎える伝統校であり、校訓「質実剛健」の下、多くの生徒が文武両道に励み、大学進学を経て社会の中核となる人材を輩出している学校である。そして、何よりも平成 23 年度よりスーパーサイエンスハイスクール（以下SSH）の研究の指定を受け、その中心とする考え方に持続発展教育を据え、「総合的な学習の時間」を学校設定教科「ESD」として取組を進めてきた。そして、平成 24 年 8 月にユネスコスクールに認定された。

### 2 研究の目的

ESD は、人類が地球レベルで直面するさまざまな課題を解決するために、環境・開発・人種・平和・多文化・共生・ジェンダー・国際理解・福祉と多岐にわたる分野で持続可能な未来を創造する力を育むための教育である。このことは本校のSSH事業の目標とまさに合致している。本校では理数教育の充実とともに「刈高生の活躍で世界の人々を幸せにしたい」をスローガンに、国際社会に貢献できる科学的リテラシーや国際的教養やコミュニケーション能力、課題解決力を備えた人材育成を目指すカリキュラム開発を行っている（図 1）。その中心となる本校の学校設定教科「ESD」（総合的な学習の時間に相当）の改善そのものが研究である。世界で活躍できる素養をもった人材を育成していくことを目的として学校設定教科「ESD」の改善を図った。その実践スキームを図 2 に示す。

図 1 刈谷高校の目指す姿

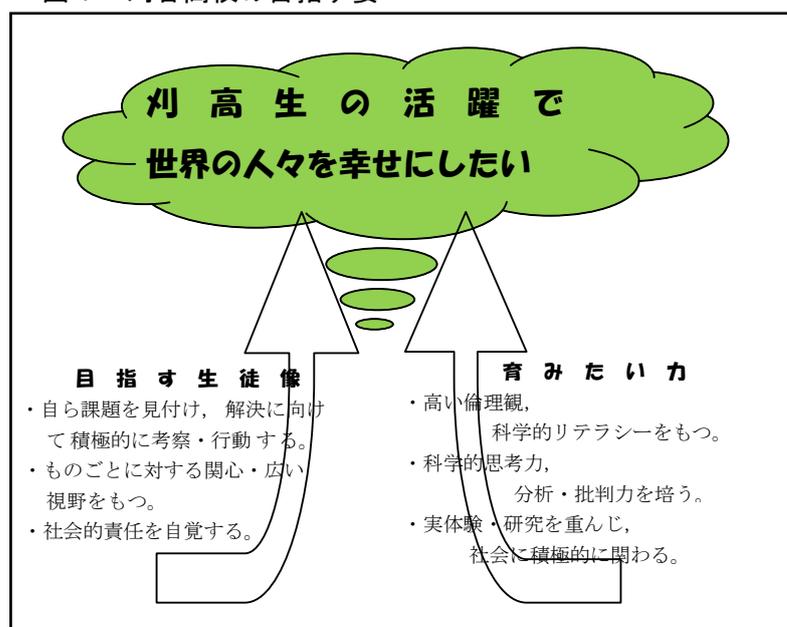
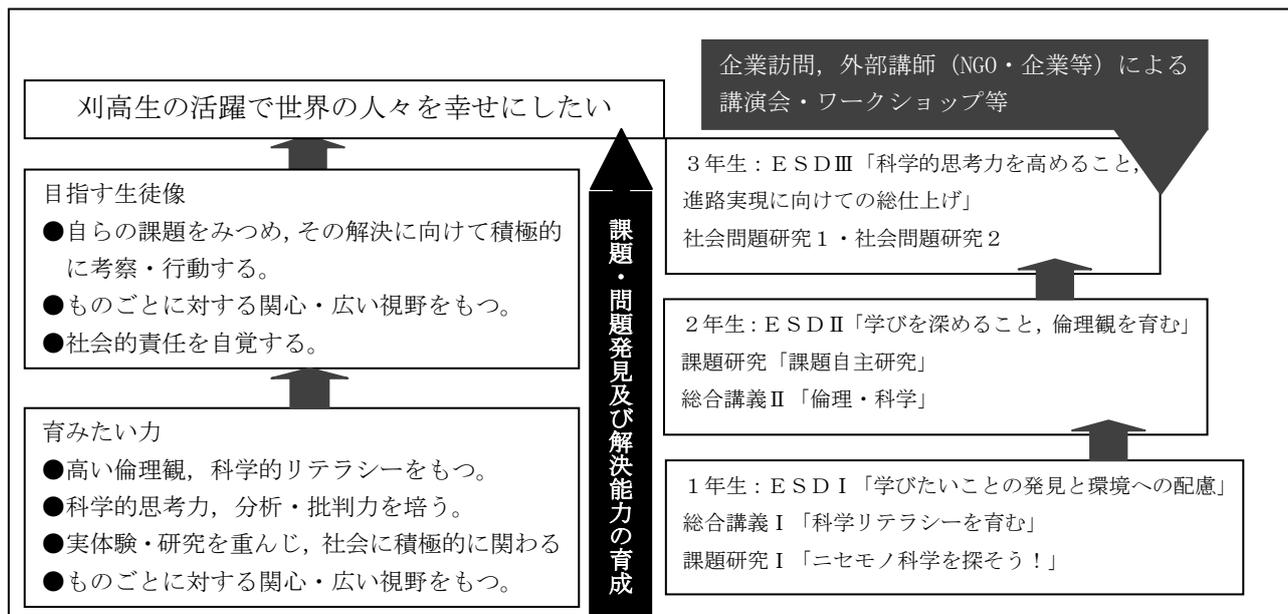


図2 刈谷高校のESD実践スキーム



ESDそのものは非常に幅の広い概念・分野をもっている。そうした中で、ESDであれ、SSHの教育であれ、中核に据えたいことは「現在、世の中が抱えている課題を発見し、その解決に向けて主体的に考えて考察することができる生徒を育む」ことである。こうした力を育むため、学校設定科目「ESD」をどのように改善するかが研究の主題である。

### 3 研究の方法

学校設定科目「ESD」の年間指導計画の分析をしたうえで、新たなESDの視点を導入し、課題解決に向けて、生徒が主体的に取り組むことができる展開に改善する。特に、2年生の「自主課題研究」について、生徒が課題に強く迫ることができるような手立てを工夫する。

### 4 研究の内容

#### (1) 学校設定科目「ESD」の年間指導計画

はじめに本校におけるESDの計画を提示する（図3～5）。

図3 1年生「学びたいことの発見と環境への配慮」

育みたいもの	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<b>1基礎基本の定着</b>	ESDガイダンス 図書館オリエンテーション オリエンテーション合宿				学校祭準備				租税教室		
<b>2進路研究 未来との関わり</b>	進路研究1（学部学科研究） ESD講演会				進路研究2（文理選択） 課題研究1 テーマ 「ニセモノ科学を探そう！」 7月に身の周りにあるニセモノ科学を紹介し、夏休みに各自で見つけさせる。2学期に入ったところで、各クラスで報告する。				フェアトレード講演		
<b>3倫理観 科学リテラシー</b>	総合講義1 「科学リテラシーを育む」 外部講師を招いたり、校内での講義を重ねることで科学的に物事を考える姿勢を学び、身に付ける。				7月に身の周りにあるニセモノ科学を紹介し、夏休みに各自で見つけさせる。2学期に入ったところで、各クラスで報告する。				修学旅行研究1 (原爆について学び、考える)		
<b>4科学的思考力 分析・批判力</b>	総合講義1 「科学リテラシーを育む」 外部講師を招いたり、校内での講義を重ねることで科学的に物事を考える姿勢を学び、身に付ける。				7月に身の周りにあるニセモノ科学を紹介し、夏休みに各自で見つけさせる。2学期に入ったところで、各クラスで報告する。						
<b>5実体験・研究 社会との関わり</b>					デンソー企業見学 環境と関わる最先端技術を学ぶ。						

図 4 2年生「学びを深めること、倫理観を育む」

育みたいもの	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
<b>1基礎基本の定着</b>	ESDガイダンス 修学旅行研究2 (しおり作成、萩の町・秋芳洞を学ぶ)				学校祭準備							
<b>2進路研究 未来との関わり</b>	進路研究3 (大学入試のシステムを学ぶ)				進路講演会 大学模擬授業 (学部・学科への知識を深める)				進路研究4 (受験生に向けて)			
<b>3倫理観 科学リテラシー</b>					課題研究2 「自主課題研究」 歴史、政治、経済、環境、医療、最先端 技術など自分の興味・関心のある分野に ついて、知識を深めて考察をする。 まずは昨年度の優秀作品を紹介し、研 究・レポートの基礎をガイダンスする。 夏休みにレポートを完成させ、2学期各 クラスで発表する。				総合講義2 テーマ「倫理・科学」 文系の生徒は理系の 教員から、理系の生徒 は文系の教員から講 義をうけ、幅を広げる			
<b>4科学的思考力 分析・批判力</b>												
<b>5実体験・研究 社会との関わり</b>	修学旅行				夏休み=SSH研究、各種体験講座				デンソー 国際貢献プロジ ェクト		自主課題研究優秀作品発表会	

図 5 3年生「科学的思考力を高めること、進路表現にむけての総仕上げ」

育みたいもの	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
<b>1基礎基本の定着</b>	ESDガイダンス				学校祭準備				センター試験事前指導 卒業への準備			
<b>2進路研究 未来との関わり</b>	進路ガイダンス				大学模擬授業 大学にむけての書類など諸準備				担任との面談をより密にする。			
<b>3倫理観 科学リテラシー</b>												
<b>4科学的思考力 分析・批判力</b>	総合講義3 テーマは教員・生徒と もに自由に設定・選択				社会問題研究2 1とは異なるテーマを選択し、 考察する。幅広い識見をもつこ とをねらいとする。							
<b>5実体験・研究 社会との関わり</b>	社会問題研究1 課題研究、総合講義で学んだこ とを活かし、地球的問題へ解決 策を自分なりに考察する。											

計画の中で目玉となるのが、課題研究、総合講義、社会問題研究である。それぞれの特色について触れておくと、まず課題研究は、これまで自主課題研究として生徒自身がテーマを自由に決めて、情報収集・分析・考察を行ってレポートを提出する形式のものである。これは「現在世の中が抱えている課題・問題を発見し、その解決に向けて主体的に考えて考察することができる生徒を育む」ことの根幹となる部分である。

次に総合講義について、1年次は環境というテーマで各教科の教員からオムニバス形式で講義を受けて理解を深めるもので、2・3年次は教員が自由に設定したテーマを生徒が選択受講する形式のものであり、幅広い知識や視野をもつことによってより高度な課題解決能力の素養を身に付けさせるものである。さらに3年次には社会問題研究で、政治・経済・福祉・教育・環境・先端技術・医療など

幅広く現代社会が抱えている問題について学び、考え、最後に小論文をまとめるものである。

いずれも生徒の主体的な活動の場となるものではあったが、E S Dの視点を踏まえてより一層発展させた計画をここで提示してみた。具体的には、課題研究では自主課題研究という形式は2年次のみとし、1年次では科学リテラシーをもつために、世に流通している商品などに潜んでいるニセモノ科学を探ること（要は宣伝・効用などの虚をあばくこと）にテーマを統一した。また2年次の総合講義では、先端科学や科学的思考力を身に付けるだけでなく、それを用いる者の倫理観を育むことを重視し、テーマを「倫理・科学」と設定した。

その他の特徴としては、進学校の授業ではとかく座学に終始してしまい、実体験やディベート・ワークショップの機会が少ないという嫌いがある。それを総合的な学習の時間の中で補うため、刈谷市に本社があるデンソーに協力してもらい、生徒に実体験の場面を提供する。またE S Dでは人権教育も大切な一側面である。そこでフェアトレード講演を開催する。この講演ではワークショップを交えながら、フェアトレードとは何か、世界経済の一実態を生徒に考えさせる。

その他としては、ガイダンス類・進路研究・大学模擬授業である。前者・中者は、どこの高校でも類するものを展開しているのので、詳述するまでもない基本的な事項である。また大学模擬授業は、大学教授を招いて講義をしてもらい、生徒が大学での学びとは何かを先取りして体験させ、あわせて進路意識の高揚を図るためのものである。

以上、E S Dの年間指導計画について簡単に説明したが、このような整理をせずに従来の形式で本校の「E S D＝総合的な学習の時間」は、昨年度からスタートした。そこで不十分な所が出てきたため、今回一試案として計画を立案してみたところである。したがって、この計画は、未実施の部分が多い。そこで、計画実現に近付けるためにどのように実践をしていくのかということが大切である。ここが今回の研究の骨子となるので、そのことは次の(3)で述べることにする。

## (2) チェックシートによる分析

この理想形の年間指導計画を国立教育政策研究所が提示したチェックシートで分析してみると、以下のようになる。○を記したところが、その活動における重点項目である（チェックシートを見やすいように改変した）。

ア 持続可能な社会づくりの構成概念（表1、2）

表1 実践と構成概念の関係1

	総合講義	課題研究	社会問題研究	企業訪問	企業プログラムへの参加	N G O 講演会	大学模擬授業
《多様性・相互性》	○	○	○		○	○	○
《有限性》		○	○	○			○
《連携性》		○	○		○		
《公平性》		○	○	○		○	
《責任性・その他》	○	○	○	○		○	

《多様性・相互性》…地球には多くの生命が存在し、各地に各様の風景・歴史・文化・社会が存在する。しかし、自然開発や都市化、グローバル経済といった様々なうねりの中で大きく変動しようとしている。地球には多様な世界・生命が存在し、それが自分たちの行動で損なわれることが

ないように経済成長や先端技術の開発をしていかなければならない。

《有限性》…20世紀における経済、工業、技術の発達は、地球上の限りある資源の利用によって支えられてきた。しかし、21世紀に向けて資源の枯渇という大問題に直面している。そこで、限りある資源を未来世代が利用できるような持続可能な経済成長、資源利用、技術革新を図らなければならない。

《連携性》…自分の行動が地球につながっていく。また自分1人の行動だけでなく、地域社会、企業、世界各国の人々など周囲、世界を巻き込んで問題に取り組んでいくことが必要である。

《公平性》…南北問題・南南問題だけでなく、各国内での経済格差も大きな課題である。また児童労働など子どもの人権を守るといった問題もあり、これらは我々の日常の消費生活や日常生活と不可分のことでもある。こうした国内外の問題解決に取り組むことで、公平性のある社会の実現を目指す必要がある。

《責任性》…高い倫理観をもち、次世代に向けて地球生命が共存できる社会を構築する責務を担っており、それにむけて主体的に取り組み、課題を解決していかなければならない。

イ ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度

表2 実践と能力・態度の関係

	総合講義	課題研究	社会問題研究	企業訪問	企業プログラムへの参加	NGO講演会	大学模擬授業
《批判・総合》	○	○	○				○
《対話・協力》		○	○	○	○	○	○
《未来・つながり》		○	○	○	○		○
《参加》					○		
《その他》	○					○	

《批判・総合》…基礎知識を活かし、考察とともに客観的な批判を加えることで高度な分析力をもつこと。

《対話・協力》…対話・ディスカッション・ワークショップの中で考察を深め、ものごとを進める態度。

《未来・つながり》…学習で得た知識・考察を未来・社会へ還元させる力。

《参加》…座学や調べ学習に終わらず、実体験を重視する態度。

《その他》…高い倫理観・規範意識をもつこと。

### (3) 今年度の研究の骨子

以上のように、本校が学校設定科目「ESD」の年間指導計画の分析をしたうえで、今年度は2年生を対象に1年生で行う内容も加えての実践を行った。今年度実施の年間指導計画は以下のもの(図6)である。図4(理想の年間計画)との違いを吹き出しで示した。

図6

育みたいもの	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<b>1 基礎基本の定着</b>	ESDガイドンス 修学旅行研究 (しおり作成, 広島と原爆, 萩の町・秋芳洞を学ぶ)				学校祭準備						
<b>2 進路研究 未来との関わり</b>	進路研究 (大学入試のシステムを学ぶ)				進路講演会 大学模擬授業 (学部・学科への知識を深める)			進路研究 (受験生にむけて)			
<b>3 倫理観 科学リテラシー</b>	フェアトレード講演 (含 事前のワークショップ)				課題研究 「自主課題研究」 7月にテーマ設定, 夏休みに課題研究を すすめ, 9月の始業式に提出。各自の発 表は11月2日より順次おこなう。 優秀者を選抜し, 1月に発表させる。			ESDの視 点を入れた			
<b>4 科学的思考力 分析・批判力</b>	1年生の 内容										
<b>5 実体験・研究 社会との関わり</b>	修学旅行				夏休み=SSH研究, 各種体験講座			デンソー国際 貢献プロジェ クト(有志)		自主課題研究優秀作品発表会 SSH発表会	

ア 2012年度2年生「ESDⅡ」

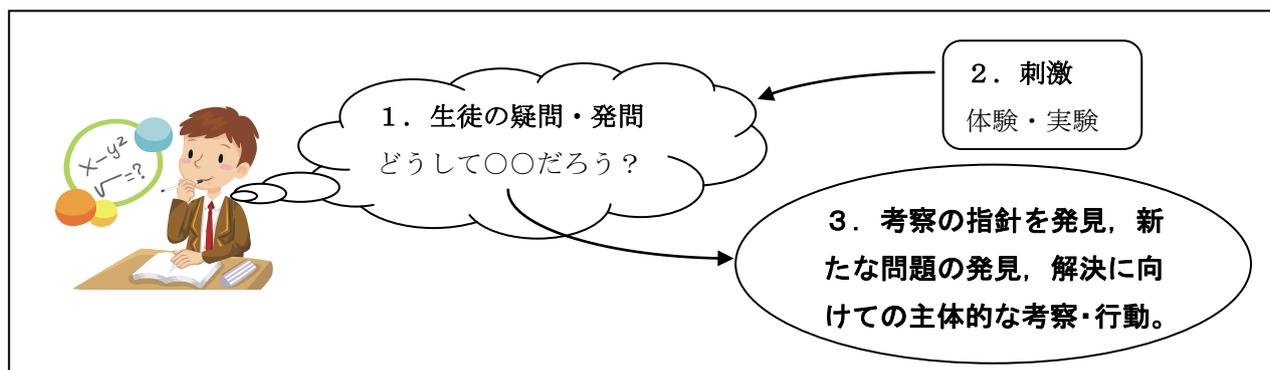
(ア) 課題研究Ⅱ「自主課題研究」

本校では次に挙げる18のテーマ(表3)から生徒は自由に分野を選択し, 各自課題研究を進めていく。課題研究といっても, 辞書やインターネットでの調べ学習のみではESDの視点に立った学習とは言えない。そこで, 下記のようなチャート(図7)が実現できないかと考えた。「自主課題研究」であるがゆえに, 主体的・課題解決的な考察や課題への取り組みが求められる。生徒が何を問題とし, 何を考えるのかを待つことが大切であり, 生徒に課題を与えるのではなく, 「2 研究の目的」のところ述べたように, 研究だけでなく現場での実体験を生徒にさせ, そこから学習意欲や興味・関心, 問題意識や新たな課題の発見をさせる。つまりは, 生徒に問題意識を喚起したり, 価値観を揺さぶったりするような講演や実験・体験の機会を提供することで, 課題を考察させることを目指した。

表3 自主課題研究の分野一覧

1 言語・文学	2 哲学・思想	3 伝統文化・各国文化	4 歴史	5 法・経済・社会	6 生活一般
7 社会問題	8 文化・マスコミ	9 学校問題	10 国際問題・国家	11 数学・コンピュータ	12 宇宙・天文・気象
13 科学技術・化学	14 生物	15 生理・健康・スポーツ	16 医学・薬学	17 環境	18 心理学
(19 防災 *防災は設定していなかったが, 2名の生徒が新たに取組んだため, 今回は便宜上「19 防災」と設定した。)					

図7 自主課題研究のチャート



(イ) 実験, 体験, 講演などの機会の提供

SSHの事業で、東京大学、名古屋大学はじめ研究機関と連携してさまざまな研究のプログラムを提供しているが、本校では2年次に生徒は文理選択を終え、文系の生徒はSSHの研究プログラムとは縁遠くなる。そのため、文系の生徒へのSSHの事業、ESDの事業に、外部講師や企業訪問による知識・情報提供、実験、体験等の機会を提供することとした。

a 外部講師によるフェアトレード講演会「貧困とは何か～ワークショップ」

世界貿易、経済の在り方、公平性といった課題研究に取り組む生徒が出てくることに期待し、今年6月に学年全体を対象にフェアトレードに関する講演会を実施した。ゲスト・ティーチャーを招き、「貧困とは何か」をテーマにワークショップ（具体的には、6人程度のグループで貧困から連想することを列挙してつなげていくもの）を実施し、その後講演を行った。

講演後に行った生徒アンケートの結果は以下ようになった。アンケート項目3、5において「とても」、「やや」に○をつけた生徒は、文理を問わず70%以上ある。

1. 以前からフェアトレードを知っていましたか

	文系男子		文系女子		理系男子		理系女子	
内容を理解していたし、商品を購入したこともある。	3人	5.8%	1人	1.1%	4人	2.9%	3人	4.5%
内容はあまり理解していなかったが、商品を購入したことがある。	0人	0.0%	4人	4.6%	6人	4.3%	2人	3.0%
内容は理解していたが商品を購入したことはない。	7人	13.5%	20人	23.0%	26人	18.8%	10人	14.9%
知らなかった。	42人	80.8%	62人	71.3%	102人	73.9%	52人	77.6%
有効回答数	52人		87人		138人		67人	



講演会

2. 講演の内容はとても興味深かったですか。

	文系男子		文系女子		理系男子		理系女子	
とても	13人	26.0%	22人	25.6%	27人	19.3%	23人	33.8%
やや	23人	46.0%	58人	67.4%	69人	49.3%	39人	57.4%
あまり	11人	22.0%	6人	7.0%	36人	25.7%	3人	4.4%
いいえ	3人	6.0%	0人	0.0%	8人	5.7%	3人	4.4%
有効回答数	50人		86人		140人		68人	

5. フェアトレードの考え方を伝えたいと思いますか。

	文系男子		文系女子		理系男子		理系女子	
とても	12人	23.1%	24人	27.6%	19人	13.5%	20人	29.4%
やや	28人	53.8%	56人	64.4%	80人	56.7%	44人	64.7%
あまり	8人	15.4%	7人	8.0%	36人	25.5%	4人	5.9%
いいえ	4人	7.7%	0人	0.0%	6人	4.3%	0人	0.0%
有効回答数	52人		87人		141人		68人	

3. フェアトレードに興味をもてましたか。

	文系男子		文系女子		理系男子		理系女子	
とても	12人	23.1%	29人	33.3%	31人	22.0%	20人	29.4%
やや	27人	51.9%	52人	59.8%	63人	44.7%	46人	67.6%
あまり	10人	19.2%	6人	6.9%	38人	27.0%	2人	2.9%
いいえ	3人	5.8%	0人	0.0%	9人	6.4%	0人	0.0%
有効回答数	52人		87人		141人		68人	

6. 今後フェアトレードの商品を購入したいですか。

	文系男子		文系女子		理系男子		理系女子	
とても	10人	19.2%	37人	42.5%	25人	17.7%	23人	33.8%
やや	30人	57.7%	44人	50.6%	67人	47.5%	36人	52.9%
あまり	8人	15.4%	6人	6.9%	41人	29.1%	9人	13.2%
いいえ	4人	7.7%	0人	0.0%	8人	5.7%	0人	0.0%
有効回答数	52人		87人		141人		68人	

4. フェアトレードが理解できましたか。

	文系男子		文系女子		理系男子		理系女子	
とても	11人	21.2%	19人	21.8%	34人	24.1%	20人	29.4%
やや	25人	48.1%	55人	63.2%	70人	49.6%	38人	55.9%
あまり	13人	25.0%	13人	14.9%	31人	22.0%	10人	14.7%
いいえ	3人	5.8%	0人	0.0%	6人	4.3%	0人	0.0%
有効回答数	52人		87人		141人		68人	

7. ESDに関して、さらに興味がわいてきましたか。

	文系男子		文系女子		理系男子		理系女子	
とても	7人	13.5%	8人	9.3%	10人	7.2%	8人	11.9%
やや	21人	40.4%	52人	60.5%	60人	43.5%	41人	61.2%
あまり	17人	32.7%	23人	26.7%	52人	37.7%	15人	22.4%
いいえ	7人	13.5%	3人	3.5%	16人	11.6%	3人	4.5%
有効回答数	52人		86人		138人		67人	

b 企業訪問「フジイ化工株式会社工場見学」

生徒が課題を選択する際の15の分野の一つに「環境」がある。この分野は、「持続可能な社会づくり」には関わりが深く、昨今の省エネやエコブームは東日本大震災により一層関心が高まっている。したがって、生徒はこの分野に興味・関心をもっているだろうし、また彼らに有益な実体験の機会を提供することができれば、環境に関する生徒の課題研究に役立つ。そこで、学校の近隣にある企業とタイアップして環境に関する機会を提供することに決め、安城市にあるプラスチックの再生企業であるフジイ化工株式会社の工場見学を生徒に提示した。

会社概要を説明すると、自動車の内装などのプラスチックを再利用・再加工であるが、この技術を生かしてエコキャップの回収にも取り組んでいる。エコキャップの再利用は利益があがらない事業で

あるが、再利用の作業過程が障がい者の授産事業になること、またエコキャップの回収がワクチン事業に寄与すること、といったCSR事業になることから積極的に取り組んでいる。リサイクルの現場体験、CSR事業及び企業の責任、地元の中小企業の実態など生徒にとっていろいろな素材を提供してくれる企業である。

以上より、今回課題研究で「環境」を選んだ生徒にとって、フジイ化工(株)の工場見学が有益であると考え実施した。

エコキャップの回収は中学校でも盛んに行なわれていたようで、生徒にとって馴染みのある事業であった。しかし、それがリサイクルとしてはどのような過程で何に変わっていくのかは初めて見ることばかりであり、生徒は積極的に現場体験に取り組み、工場の人にも多くの質問をしていた。

見学後のアンケートに、「授産事業になっていること」「エコキャップの回収を少しでも多くできるために、本業のプラスチックのリサイクルでの利益をたくさん出すことを目標とすること＝企業の社会責任」があり、生徒にとっては大きな発見があったようだ。また理系の生徒には、プラスチックの強度検査の説明がより強い印象を与えていたようである。



工場見学の様子

## 5 研究のまとめと今後の課題

### (1) 研究のまとめ

今年度当初の生徒が選択した「自主課題研究」のテーマ分野別登録数は下記のようになった。

1. 言語・文学	9	11. 数学・コンピュータ	18
2. 哲学・思想	10	12. 宇宙・天文・気象	30
3. 伝統文化・各国文化	24	13. 科学技術・化学	23
4. 歴史	16	14. 生物	33
5. 法・経済・社会	12	15. 生理・健康・スポーツ	55
6. 生活一般	12	16. 医学・薬学	16
7. 社会問題	6	17. 環境	9
8. 文化・マスコミ	14	18. 心理学	61
9. 学校問題	2	19. 防災	2
10. 国際問題・国家	7		

フェアトレード講演会のテーマである「5 法・経済・社会」「7 社会問題」「10. 国際問題・国家」、企業見学のテーマである「17. 環境」を選んだ生徒の研究主題は下記のようになった。

5	法・経済・社会	ミャンマーの GDP	10	国際問題・国家	領土問題
		経済コンサルタント			戦争
		東京都知事・大阪市長から学ぶ思想			ギリシャ
		日本の産業と世界の産業の関係			戦争と紛争の原理
		ディズニーランドの秘密			アラブの財政状況について
		ユニクロ			国と国との協力
		衝動買い			児童労働

5	法・経済・社会	流通・経済について	17	環境	地球温暖化※
		SAMSUNG の人気にせまる			地球温暖化※
		黒点から見る経済の未来			エネルギー問題について
		地方政党はなぜ躍進したのか？			分別について
		欧州危機での日本への影響について			蚊のいないクリーンな世界を目指して
7	社会問題	高齢者の交通事故について			Recently Eco
		薬物乱用			電気自動車の仕組み
		オウム真理教の目的			環境※
		ゆとり教育とゆとり世代			環境※
		よりよい仕事をするために			※異なる生徒が同一タイトルのレポートを作成した。
		日本人の幸福度			

5の「流通・経済について」の課題研究の内容はマーケティングについてであった。フェアトレードに関連したテーマである「児童労働」を挙げた生徒が1名いた。この生徒のレポートは、貧困・環境・法律が守られないこと・途上国に不利な貿易の仕組みという児童労働の原因の整理から始まり、カーペット業者に売られてしまったイクバル・マーシーの事例、このイクバルの講演に影響を受けたアマダ・ルースが友人たちをともに寄付金を募ってパキスタンのNGO組織に寄付したことなどの事例をまとめていた。その他、金属工場で働いて重度の火傷をおった少女、裸足のまま針が散乱する床の上で注射器を選別する少女など、過酷な児童労働の実態を調べあげた。この生徒はレポートの最後に、「学校に行き、勉強して、部活をして、ごはんを食べて…って私の毎日は何も変わっていないし、何か変わることを想像することもできない。結局、私は（多分他の人も）児童労働がどれだけ残酷なことを全く理解できていないのだと思った。本やパソコンには、“もっとたくさんの方が児童労働について知り、フェアトレードの商品を買ったり、キャンペーンを行ったりすることが大切！”と書いてあったけど、本当にそれだけでいいのかと考えてみた。子どもを支配してお金に目がくらんでいる愚かな大人を、そんな大人を生んでしまっている社会を、どうにかするためには、その社会を生んでしまっている社会をどうにかするためには、その社会を作り出している先進工業国が、もっと我慢することが大切なんじゃないか。…」と考えを述べている。レポートは、調べ学習と自分の考えやあるべき倫理観の発見で終わっており、具体的にどのようにアクションするのか、どう社会があるべきかという考察までには達していないので、今後いかにして発展させていくか、それは課題研究の段階であるのか、3年次の社会問題研究において実現するべきか、という点は次年度以降の研究課題とする。フェアトレード講演会によって1名の生徒であったが、生徒の問題意識の喚起につながったことが把握できる。

一方、フジイ化工(株)の工場見学に参加した8名の生徒のうち、「環境」を選んだ生徒は1名であった。生徒のレポート名は「Recently Eco」である。この生徒のレポートも本やインターネットを利用しながら、2部構成でバイオマスとエコキャップ運動についてまとめていた。バイオマスに関しては、生徒自身が興味・関心をもっている環境に関する分野を自ら掘り下げて調べ、考察を重ねた内容であった。調べ学習という色合いが強いが、こちらも自分で興味・関心のあるテーマを探し、調べ、問題点を発見して考察を深めるという過程を十分に踏んでいると言える。エコキャップについてはまさに工場見学から派生した内容であり、内容的にはエコキャップ運動の概略をまとめたに過ぎないが、最後に生徒が、「エコキャップ運動について、送料がかかる点や、キャップを集めるためにたくさんペットボトル飲料買って飲むなんてエコじゃないし本末転倒である。それなら買うのを我慢して、浮いた150

円分をワクチンにすればいいや、といった部分も考えられる。しかし、ペットボトル飲料は需要が膨大にある。だからどんどん生産されどんどん購入されていく。それならば、毎日出ているキャップのゴミはどうすればいいのか。エコキャップ運動が無くても、ごみ処理業者にきちんと回収され、リサイクルされる。そうであるのならエコキャップ運動を行い、すこしでもそのキャップがワクチンにかわるこの運動はいいものではないか。この運動は寄付だけが目的ではないと考える」と記していることに注目したい。この結論を膨らませる考察や資料収集ができればなお良かったが、生徒がエコキャップ運動の問題点や矛盾点を発見し、自分の意見を提示してきたのは自主課題研究における目標の一つを達成したといえる。

これらの学習の結果から、フェアトレード講演会、工場見学が4の(3)で提示したチャート(p.103 図7)の「2. 刺激」になったといえる。生徒のレポート内容は、調べ学習の枠の中ではあるが、講演会・実体験の場を提供することが生徒の主体的な学習への取り組みに寄与したことに 대해서는及第点が与えられると評価できる。次年度にむけての課題として、多種多様な課題研究が出てくるなか、多くの生徒のニーズに沿ったもの、あるいは体験・講演が課題研究とつながるような方向性や指導の在り方を整えていく必要性を痛感した。

## (2) 評価について

さて、本研究の目的は「問題・課題解決能力を育むこと」である。今年度はそのために課題研究を実施し、それをサポートするために講演会や企業の工場見学の機会を提供した。そこで、今回の過程で、生徒に問題・課題解決能力をどのくらい育むことができたのか、について資料1の評価シートを用いて、生徒の課題研究を評価する。評価の規準は、課題探究力では意欲だけでなく、結論の実証や論証がしっかりできているかということ、資料活用では参考文献とともに論拠となる具体的なデータが付してあるかどうか、表現力や発表力では自分の考えをまとめるだけでなく、仮説・実証・結論という研究発表の形態を整えられているか、という点である。

筆者が評価を担当する17名の生徒の評価は以下ようになった。

	課題探究力	情報活用能力	表現力	発表力
◎	2	0	3	1
○	13	14	14	12

若干名の生徒を除き、概して良く調べ、良くまとめられた課題研究であったといえる。ただし、情報活用に関してはインターネットによる情報検索が多いようであり、情報リテラシーや研究におけるソースの扱い方も指導しなければいけない。それから、評価の数値には表れていないが、実際の発表を目の前にしたところ、生徒のプレゼンテーション能力が身に付いていないため、発表内容を十分に表現できていないと感じた。この点は教科「情報」の教員と連携して改善していきたい。また「課題探究力」においては◎となる生徒が増えるような指導やカリキュラムの開発にも取り組む必要がある。

## (3) 今後の課題

本校の「ESD＝総合的な学習の時間」は従来の授業カリキュラム形式を基礎に昨年度よりスタートした。平成24年度のESD実践は、試行錯誤しながら実践する過程で不十分なところを改善し、一試案として計画を立案し実施してみた。したがって、この計画は、まだ未実施の部分が多い。そこで、計画の完全遂行に近付けるためにどのように実践をしていくのかということが今後の検討課題である。

「総合的な学習の時間（ESD）」の評価について

- 1 評価 評価規準は別に定める。
- 評価は3段階とする  
 特に優れている …◎  
 優れている …○  
 普通程度である …空欄
- ※前提として、マイナス評価はしない

- 2 評価の観点
- (1) 課題探究力（探究心） …知的関心、探究心が旺盛かどうか  
 (2) 情報活用能力 …参考資料の活用能力が優れているかどうか  
 (3) 表現力 …文章表現力が優れているかどうか  
 (4) 発表力 …自分の考えを発表する力が優れているかどうか  
 (5) その他

※ (1) ～ (3) については、レポートが提出されたときに分野別担当者が評価する。  
 (4) については、分野別発表の時に評価する。  
 (5) その他には、特に優れていた面があれば、記述的に評価する。

(以下、評価シート)

総合的な学習の時間（ESD）の学習評価表 記入例

2年 組 番氏名 \_\_\_\_\_

評価の欄は、◎、○を含めて2つ以上記入する。

自主課題研究テーマ		(分野別担当者が記入する。)		
自主 課題研究	評価の観点	概 評		評価
	課題探究力	◎知的探究心はきわめて旺盛であった。 ○知的探究心は高かった		◎
	情報活用能力	◎資料活用能力は特に優れていた ○資料活用能力は優れていた		
	表現力	◎文章表現力は特に優れていた ○文章表現力は優れていた		
	発表力	◎発表能力は特に優れていた ○発表能力は優れていた		○
	その他		※総合 評価	A

※総合評価は、A・B・Cの3段階評価